

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	耐震性能評価・改修小委員会		主 査 名：立道郁生 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)		委員長名：中島 正愛 主 査 名：小河 利行
設 置 期 間	2008 年 4 月 ～ 2012 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>地震時の避難施設として期待されている学校体育館などに対して、現在、耐震診断、耐震改修が進められているが、現行の方法では、必ずしも体育館に表れる空間構造特有の動的挙動を反映していないことや、避難所としての機能阻害要因について十分検討されていないことなどがたびたび指摘されている。</p> <p>現状の診断法・改修法について調査を行い、それに基づきより合理的な耐震性能評価法、改修法のあり方について調査・研究する。これらの成果に基づき、空間構造物の特性を反映した総合的耐震性能評価法に関する研究成果を社会に還元することを目的とする。</p> <p>2008 年度：空間構造の耐震性能評価・改修方法の現状と問題点を整理する 2009 年度：整理された項目を分担し、調査研究を実施する 2010 年度：「学校体育館の耐震診断・改修方法の課題と取り組み」と題したセミナーを開催する 2011 年度：これまでの成果を集約し、シェル・空間構造運営委員会にて企画中の、「(仮称) ラチスシェル屋根構造設計指針・同解説」の第 6 章「耐震診断と耐震改修」の原稿案を作成する</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>主査 立道 郁生 (明星大学) 幹事 諸岡 繁洋 (東海大学) 石川 浩一郎 (福井大学) 石原 直 (国土技術政策総合研究所) 大崎 純 (広島大学) 加藤 史郎 (豊橋技術科学大学) 竹内 徹 (東京工業大学) 中澤 祥二 (豊橋技術科学大学) 那花 謙二 (巴コーポレーション) 藤原 淳 (太陽工業株式会社) 古川 忠稔 (名古屋大学) 山下 哲郎 (工学院大学) 松岡 祐一 (新日鉄エンジニアリング) 松本 幸大 (豊橋技術科学大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>「耐震性能向上のための応答制御手法と減衰性能WG」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間構造の耐震性能向上に適用可能な応答制御技術の調査・研究 ・応答制御技術や理論を用いた耐震改修法の提案 		
2010 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p style="text-align: center;">催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p>	<p>セミナー「学校体育館の耐震診断・改修方法の課題と取り組み」 2010年12月3日開催</p> <p style="text-align: right;">参加者数 89名</p>
<p style="text-align: center;">大会研究集会</p>	
<p style="text-align: center;">対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 目標通り、セミナー「学校体育館の耐震診断・改修方法の課題と取り組み」を開催した。 多くの実務者を含む定員を大幅に超える申し込みがあり、セミナーのテーマに関する社会的ニーズの大きさが、再確認された。セミナーは小河利行シェル・空間構造運営員会主査の開会挨拶で始まり、学校体育館の耐震診断・改修方法の課題と取り組みに関する8名の講師による講演が行われた。その後、参加者と講師による総合討議が活発に行われた。</p> <p>2. 2010年度の目標は達成したと考えられる</p>
<p style="text-align: center;">委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. これまでの成果に基づき、どのような形でこれを「(仮称)ラチスシェル屋根構造設計指針・同解説」に反映させるかの議論が必要である</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。